

## 備蓄について

### 天然物の真昆布大減産

七月の下旬から始まる昆布の漁期を前に、今年の天然昆布の水揚げ量予測が発表されました。ショッキングなことに、今年の天然物の真昆布は過去に例が無いほどに大不作です。昨秋の強い低気圧によって、若い昆布の大半が流されたのが主な理由です。

当店が主に使用する昆布の産地がある南かやべ地区に限れば、水揚げが前年比 95%減だとのこと。つまり去年の 20 分の 1 しか採れないのです。当然価格は高騰します。それなのになぜこんぶ土居は、価格を上げずにやっていけるのでしょうか。

### 価格を上げないわけは（一部特別価格品は少し値上げさせていただきます。）

その理由は備蓄です。漁獲量が多く価格も比較的安い年にたくさん仕入れて在庫を十分もっているのに、今年ほとんど入荷が無いとしても切迫した状況にはならないのです。しかし、もし在庫が不十分だとしたらどうでしょうか。価格が高くても、少ない昆布を必死に集めることになり、そのぶん小売価格に上乘せしなければなりません。さらには、欲しい昆布が十分手に入らず、質の劣る浜の昆布や養殖昆布にも手を広げざるを得なくなることも考えられるでしょう。

### 備蓄の効果

備蓄には別の意味もあります。それは昆布の熟成です。一般の方の多くは昆布でも何でも新しいものの方がおいしいと思いがちですが、昆布は長期間寝かせることでおいしくなるのです。毎年恒例にしている北海道の夏の昆布漁のお手伝いに今年も伺う予定ですが、数年前に初めて昆布漁を手伝って海からあげて乾燥させただけの昆布の味を見たときは、普段使っている昆布と同じものとはとても思えないほどに歴然たる違いを感じました。昆布の熟成に適した環境を整えて備蓄を十分していれば、仕入れ価格を安く抑えることが出来、品質を上げることにも役立つのです。当店では平均して二年分の備蓄をし、お客様の信頼にお応えしています。

### 昆布生産地では

このように、今年の天然昆布が大凶作であっても、当店の営業には大きな問題は発生しません。しかし、北海道の昆布生産者の方々にとっては大変な事態です。天然昆布の採取と合わせて、昆布養殖を手がけておられる方はまだ良いのですが、天然昆布だけを生産されている方は、今年の漁獲量では絶対に生計が成り立ちません。

食品加工業者良いものを作るには、良い原料が不可欠です。その原料を作ってくださる一次生産者の方々の生活が非常に厳しいようでは、やる気もでないでしょうし、将来的に後継者不足にもつながり、品質の良い原料が十分手に入らないことになってしまうかもしれません。将来にわたって継続的に北海道の昆布生産が栄えていくように、当店では生産者の方々への出来る限りの支援を今後も続けていくつもりです。

### 他の備蓄

昆布屋としては、以上のような備蓄を考えておりますが、一市民としては水の備蓄がもっとも大切だと思います。山にはいろんな種類の木がたくさん生え、用水路や河川がコンクリートでなく、いわゆる「緑のダム」と呼ばれるものが重要です。都会でも雨水の透過性のある舗装にしたり、家庭でも雨水を利用したり、屋上や少しの空き地でも緑化を心がけたいと考えています。